

RPK2016 報告

熊野真規子 / 小田切雅熙 / 小笠原詩帆 / 相澤裕斗



2016.3.25-3.26 に開催された第 30 回 [Rencontres Pedagogiques du Kansai](#)(関西フランス語教育研究会)に学生 3 名と参加し、2015 年度の「弘前×フランス」プロジェクトについて報告してきました。(資料として、2 ページ目以降に予稿集の発表要旨と学生の報告書を添付します)

昨年度に比べて参加者数も増え、また、「弘前×フランス」プロジェクトに関連するアトリエ発表が 2 日間で 3 つ行われたこともあり、昨年以上に多くの方に興味をもっていただけたと思います。例年研究会が行われてきたアンスティテュ・フランセー大阪から梅田の上田安子服飾専門学校に会場が変わり、部屋の使い勝手に慣れなかったり、パワーポイントがプロジェクターではなくディスプレイ画面へ接続される部屋に当たり、作り込んだデータや画像などがアトリエ参加者に十分見えなかったのではないかと思われ点が少し悔やまれるところです。

とはいえ、学部の 2, 3 年年生レベルで研究者を前にプレゼン発表をするという経験や、他大学の先生方(研究者)との交流をつうじて受けた賞賛や激励など、研究会参加から得られた自信は大きいように思えます。フランス語教育者・研究者の研究会ですが、今回は研究交流をしている慶應義塾大の國枝研の学生達も参加したので、互いのアトリエ発表に参加したり、同室に宿泊するなど互いの刺激になったのではないかと思います。

私は今回、「弘前×フランス」プロジェクトの 2015 年度一年間の全活動の報告を学生らと行うアトリエと、発表学生も含むプロジェクト参画学生を研究対象とした共同発表のアトリエの二つで報告をしました。それぞれの地域で頑張っておられる若手の先生方がプロジェクトに興味を持って下さっていることがわかり、全国的なネットワークになっていけば地方のフランス語教育は首都圏よりも面白くなる可能性もあるのではないかと感じました。

初日の学生らとの報告のすぐ後に懇親会があり、ボルドー(海外 PBL)で現地の人達を魅了した津軽三味線の生演奏を披露し拍手喝采を浴びた点も、「弘前×フランス」プロジェクトらしいアピールとなりました。



アトリエの発表タイトル

・2015 年度「弘前×フランス」プロジェクトを振り返る

Réflexion sur notre défi 2015: projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

タイムテーブル: 3/25(金)15:35-16:55

・学生主体のプロジェクト活動における実践知と気づき-「弘前×フランス」プロジェクトを事例として-

Apprentissage par projet: la réflexion sur le cas de « Hirosaki×France »

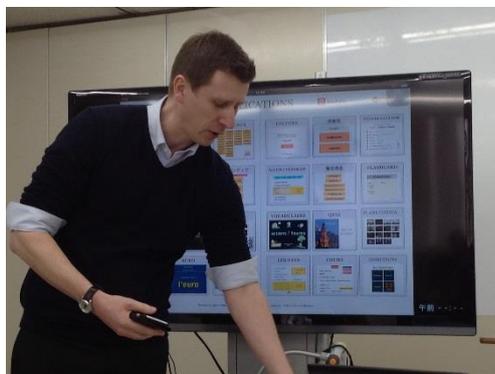
タイムテーブル: 3/26(土)11:35-12:55

参加したアトリエ

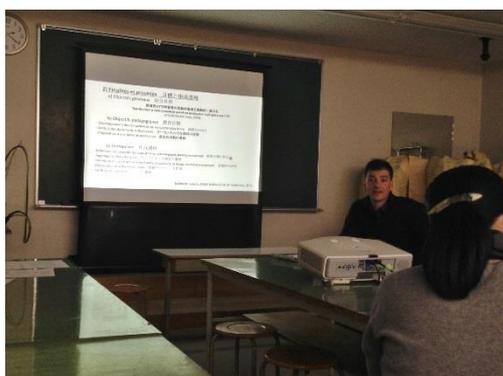
★印のアトリエは非常に刺激を受けました。

★Le "français du tourisme" enseigné dans les entreprises à Okinawa

: les TICÉ à la rescousse pour des objectifs réalisables en 10 leçons



★Travailler la compréhension écrite avec la cyberbalade : une pratique à développer en classe dès aujourd'hui 読解力向上のためのウェブクエスト活用



★私たちの考える中等教育における外国語学習について

L'apprentissage de deuxième langues étrangères dans l'enseignement secondaire

・白水社 雑誌『ふらんす』フル活用のススメ

・Réflexion sur l'apprentissage du vocabulaire en langue seconde

à partir des études antérieures 過去の研究から第二言語語彙学習を考える

・もし英語でフランス語を教えるなら

Et si on est obligés d'enseigner le français en anglais... au Japon ?

(熊野真規子)

2015 年度「弘前×フランス」プロジェクトを振り返る

Réflexion sur notre défi 2015: projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

熊野 真規子 & 学生 (小田切/相澤/小笠原)

KUMANO Makiko et ses étudiants (ODAGIRI/AIZAWA/OGASAWARA)

弘前大学

frenchpj@hirosaki-u.ac.jp

実社会からの学び。教員も学生も学ぶ。挫折か成長か？【続報】

大学教育（外国語教育）と「まち」の相互活性化という目標をかかげ、フランス語ホームページ・SNS 運営管理、オフ会活動 Cercle Francophone を基盤とし、2014 度より実社会の「リアルの場」での行動志向型学びへと舵を切った本プロジェクトについて昨年度 RPK で報告した。

本年度の新しい試み・挑戦は、オフ会活動で行ってきた主体的学生活動を、地域志向プロジェクト型授業「地域と世界をつなぐ」として教育プログラム化の試行をはじめたこと、9 月イベントをバージョンアップし、「弘前×フランス」週間という形でプロジェクトのプレゼンスをあげる（周知の）努力をしたことである。

まちづくり・地域貢献では一定の成果をあげつつも、ひとつづくり・教育プログラムとして持続性の課題を克服できるのか、来年度から英語以外の外国語が必修からはずれる弘前大学でこのプロジェクトを持続できるのかは未知数である。熊野から教員としての学び（課題と展望）を報告、学生 3 名からは、学生主体活動とそれらをつうじた成果と振り返りを報告する。

2015 年度実施活動概要

【まちなか企画】「ペタンクであそぼう！」5/23、「ママフェスタ 2015・夏」（※ワークショップ・ブース参加）7/18、「弘前×フランス」週間 9/19-27 [「シールド&ベル・キューブ：マリアージュ投票！」※りんご収穫祭 2015 参加企画 9/19-20、「ひろさき・ゆかりのフランス地方紹介」9/20-27、「カンブルメール観光局理事長クリスチャン・ボサール氏講演」9/23、「フランス日和～マルシェ 2015 Fête Française à Hirosaki 2015」9/26、「まちなかトークセッション：『弘前×りんご×フランス』」9/26]、太宰治「津軽弁×フランス語」コラボ朗読会 11/29、【助成金申請】（「弘前市市民参加型まちづくり 1%システム」補助金）、【リーフレット発行事業】（地域取材・編集・発行）、【学生海外 PBL プログラム事業】（「弘前×ボルドー」プロジェクト 10/15～10/23）、【報告活動】（「弘前×フランス」プロジェクト 2015 報告会 12/26、RPK2016 での発表）

- 1) 熊野：プロジェクト全体の概要、総括（課題）と展望（対策）
- 2) 学生 3 名：イベント企画・準備、助成金申請、リーフレット発行事業、学生海外 PBL プログラム事業等の、それぞれの経験に基づく報告と振り返り

学生主体のプロジェクト活動における実践知と気づき —「弘前×フランス」プロジェクトを事例として Apprentissage par projet : la réflexion sur le cas de 《 Hirosaki × France 》

熊野 真規子
KUMANO Makiko
弘前大学
kumano@hirosaki-u.ac.jp

釣 馨
TSURI Kaoru
神戸大学
trader0308@yahoo.co.jp

今中 舞衣子
IMANAKA Maiko
大阪産業大学
imanaka@las.osaka-sandai.ac.jp

本アトリエではプロジェクト活動における経験学習の事例を紹介し、学生がその中で得た実践知や気づきの特徴について考察する。例えば、学生はプロジェクト活動の中でどのように他者・共同体・環境と関わっているか。そうした経験から学生は何に気づき、何を学んでいるか。そこで得られた学習の質や深さは、他の形態の授業参加と比べてどのような違いがあるか。

本アトリエの事例となるのは、多言語・多文化環境にない地方都市（弘前）において、フランス語・フランス文化をモデルに複言語・複文化教育の可能性を検証する目的ですすめているアクション・リサーチ＝「弘前×フランス」プロジェクトである。弘前大学フランス語ホームページおよび SNS の管理運営を基盤に、2014 度よりオフ会活動 Cercle Francophone として実社会の「リアルな場」での行動志向型学びへと駒をすすめたが、本年度は、地域志向プロジェクト型授業「地域と世界をつなぐ」として新たに教育プログラムの試行を行った。

履修生は、地域での交流活動、取材・編集・リーフレット発行活動、地域とフランス語・フランス語圏文化を関連イベントを通じて発信する活動などを行い、市民に地域を再発見・フランスとのつながりを発見してもらう活動を行ったが、教育プログラムとしては多くの課題が感じられた。

このような一連のプロジェクト活動を事例とし、各種イベントへの参与観察、学生のふりかえりアンケートと自己評価シートの分析および一部の学生への事後インタビューを共同研究の形で実施した。本アトリエではその結果を報告するとともに、アトリエ参加者からも事例を提供してもらうことで学生主体のプロジェクト活動を企画運営していくにあたっての実践知の共有もめざす。

参考文献

- 金井壽宏・楠見孝編（2012）『実践知——エキスパートの知性』有斐閣
田中智志・橋本美保（2012）『プロジェクト活動——知と生を結ぶ学び』東京大学出版会
松尾睦（2006）『経験からの学習-プロフェッショナルへの成長プロセス』同文館出版

RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI2016

@上田安子服飾専門学校—大阪

2016. 3. 25-26 参加報告書

欧米文化コース 3年 小田切雅熙

1. 発表事前準備

①目標：

昨年12月行った発表の反省を踏まえ、パワーポイントの改善を行い、練習をして当日に備える。

②成果／課題・改善点：

パワーポイントの準備は出発前には完了出来たが、それを先生に確認してもらう時間が取れなかった。また、発表練習も修正前のパワーポイントの状態でのみで、修正後では個人的な練習しかできなかった。

一緒に同行した二人にコンタクトをとってみたいと思った。

2. アトリエ発表



・日時：3/25(金)15:35～16:55

・アトリエタイトル：

2015年度「弘前×フランス」プロジェクトを振り返る

Réflexion sur notre défi 2015: projet plurilinguistique et pluriculturel 《Hirosaki×France》

①目標：緊張しない。落ち着いて、わかり易い発表を心がける。

②プレゼン・発表内容：

自己紹介→学生団体を結成し、1%システムの申請リーフレット→取材の話→

マルシェの話→反省など

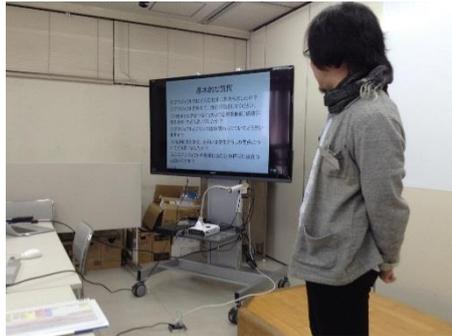
③成果／課題・改善点：

事前に受けた「初めての人には伝わりづらい」という指摘を踏まえ発表を行えた。12月、昨年度のRPKでの発表聞いていた方から良くなったと評価していただいた。前回と比べ緊張も殆どなかった。しかし、個人的には発表中に曖昧な喋り方になった所があったり、スライドの映るモニターを見ることが多かった。発表の仕方をもっと改善する必要がある。

④感想、展望など

緊張が殆ど無かったのは個人的に大きく成長出来た所だと思う。良かったと褒めてくれる方が多かったが、発表自体の技術不足を感じたので、もっと発表に慣れることが必要である。

3. その他の参加アトリエ（日時とアトリエ名も書く）／その感想



- ・日時：3/26(土)10:00～11:20

アトリエタイトル：

私たちの考える中等教育における外国語学習について

L'apprentissage de deuxièmes langues étrangères dans l'enseignement secondaire

フランス語に対する高校生の意見について、自分たちの企画したマルシェや慶應の方の出前授業からよくわかった。フランスに対する興味よりも、お菓子だとか高校生の興味に繋がる関心へどのようにアプローチしていくかを考えさせられた。

また、出前授業は個人的にとっても興味深かった。今後そういう機会があれば進んで参加したい。

- ・日時：3/26(土)11:35～12:55

アトリエタイトル：

学生主体のプロジェクト活動における実践知と気づきー「弘前×フランス」プロジェクトを事例としてー

自分達が研究対象なので、複雑な感じがした。一方で、自分以外の人意見（誰がどの意見かは伏せられたが）や想いなどを知ることができた。今後の活動でその違いを理解して手助け等が出来ればいいと思った。

4. RPK2016 の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想(学んだこと、今後への生かし方、後輩にも経験させたいか、など含む)

2度目の参加で前回から1年ぶりであったのだが、私のことを覚えていた方がいたり、何度か交流のある慶応大の方々がいたりしたおかげで会全体で特に緊張感もなく参加できたのではないかなと思う。しかし、昨年と比べるとアトリエに行けた回数が減り、交流会外で話をしたりすることが無かったため、交流不足も感じた。また、同行した2人と比べると、まだ遠慮している部分が大きかった。

5. 慶應義塾大学（國枝研究会）の学生との同宿や交流の感想

正直な所、自由な方々だなというのが一番の印象である。揃って大阪に来た私達に対してバラバラに来たり、夜遅くでも元気だったり、少し圧倒されてしまった感じが残った。一番早く大阪に来ていたリーダー以外の方とは上手く交流が出来なかった。

できればもっと多く交流の機会が欲しかった。

RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI2016

@上田安子服飾専門学校—大阪

2016. 3. 25-26 参加報告書

国際社会コース2年 相澤裕斗

1. 発表事前準備

①目標：

気を抜かずにスライドを点検し、発表のシミュレーションを行う。

②成果／課題・改善点：

個々の発表にはさほど大きな課題はなかったように思えたが、通して練習すると、発表内容や写真が他の発表者と被っていたり、発表すべき内容を発表しきれていなかったりと、いくつか改善点が見つかった。各々の予定が合わず、出発が近かったので修正後の発表練習はできなかったが、もう少し早めに練習していれば万全の状態での発表に臨めたかもしれない。

2. アトリエ発表



・日時：3/25(金) 15:35～16:55

・アトリエタイトル：

2015年度「弘前×フランス」プロジェクトを振り返る

Réflexion sur notre défi 2015: projet plurilinguistique et pluriculturel «Hiroasaki×France»

①目標：

各自の役割を意識しながら、プロジェクトの成果を伝える。それを通して、自分たちのプロジェクトの意義を再確認し、次につなげる。

②プレゼン・発表内容：

簡単な自己紹介、自分が主力として携わった企画（マルシェでのステージ企画、海外PBLでの三味線コンサート）の概要説明、アンケートからのコメント紹介、自分でやってみて得られた成果や課題、個人的な感想。

③成果／課題・改善点：

発表の出来はまずまずで、気持ちに余裕をもって行えたと思う。ビュッフェの時や帰る準備をしている時に「うちの生徒じゃあそこまでできない」「これからも頑張る」というような激励をいただけた。大学2年間で、人前で発表する機会が何度もあり、それが自分の能力と自信として定着してきていることを実感できた。

④感想、展望など

日本の各地から来場されたフランス語関係の方や、ネイティブのフランス人の方に、自分たちの活動が評価されたことがうれしかった。プロジェクトが評価されることで、運営側のモチベーションにもなると思う。

3. その他の参加アトリエ（日時とアトリエ名も書く）／その感想

- 日時：3/26(土)10:00～11:20

アトリエタイトル：

私たちの考える中等教育における外国語学習について

L'apprentissage de deuxièmes langues étrangères dans l'enseignement secondaire

今現在、日本人には外国語＝英語という考えがまだまだ強く残っていると思う。それは、中等教育においてまず英語が必修になっているからかもしれない。英語は世界で共通のことばとして広く普及しているが、その影響か、日本人からするとフランス語やドイツ語を意識する機会が、中等教育の時点であまりないのが現状である。その点では、入試の科目を変えることで、外国語＝英語のイメージを払拭するきっかけになるかもしれないと思った。

- 日時：3/26(土)11:35～12:55

アトリエタイトル：

学生主体のプロジェクト活動における実践知識と気づき

ー「弘前×フランス」プロジェクトを事例としてー

1つの研究に自分が研究対象として加わるという経験は初めてだったが、客観的に自分たちのプロジェクトを見つめなおす機会となったと思う。授業として自分の行動をフィードバックしているため、自分自身が成長しているという実感は持っていたが、改めて他人に自分を評価してもらうことで、自分では気づききれないような成長もあると感じた。

- 日時：3/25(金)12:05～12:55

アトリエタイトル：

雑誌『ふらんす』フル活用のススメ（白水社）

この時間帯は出版社の教材紹介の時間で、このアトリエに参加した理由は、ちょうど時間を持て余していたからだった。しかし偶然にも、この出版社が『Piere et Hugo（教材付属のDVDを、昨年のマルシェ時に使用したいと考えていたが、著作権の関係で断念した）』を出版している会社であり、アトリエ終了後に次年度のマルシェでDVDを使用したいと相談したところ、会社に話を通していただけることになった。時間を有効に活用すれば、思わぬ収穫もあるものだなと感じた。

4. RPK2016 の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想(学んだこと、今後への生かし方、後輩にも経験させたいか、など含む)

交流をする点で、三味線演奏をしたことが大きな手助けとなった。大抵それがきっかけとなって、面識がない方にも話しかけていただけ、交流することができた。何人かのフランス人の方とも知り合えた。個人的には、NHK でフランス語のラジオ番組を制作していらっしゃる方に、中級者向けの番組があることと、スマホで簡単にNHK ラジオ番組が視聴できるアプリがあることを教えていただいたことが、思わぬ収穫だった。しかし、よく話の話題として、「フランス関係のご専攻ですか？」や「フランスにはどういったご興味か？」などを聞かれた。確かにフランスには興味があるが、専攻でもなければ深い知識があるわけでもないで、そのような質問を受けたときに少しとまどった。フランスについての知識も深めていきたいと思った。

全国各地からフランス語関係者が集まった研究発表会に参加したことにより、自分の「社会人として」の交友関係の幅が広がったような気がした。このような場で同じく、他の大学の学生とも交流していけると、より深い交友関係を築くことができるような気がした。

5. 慶應義塾大学（國枝研究会）の学生との同宿や交流の感想

昨年マルシェの時に弘前に来たメンバーとは、すでにその時点で交流があったため、わりと気兼ねなく交流することができた。一緒に大阪名物を食べ歩いたり少し観光したりと、何気ないような交流ができ、他大学の学生と交友関係を築くことができるいい機会だと思った。しかし、直接的な知識と知識の交流がなかったのが少し惜しいような気もした。お互いの経験や知識の共有をすることで、もっと質のいい交流ができると思う。



RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI2016

@上田安子服飾専門学校—大阪

2016. 3. 25-26 参加報告書

国際社会コース 2年 小笠原 詩帆

1. 発表事前準備

①目標：

事前に一度発表していたプレゼンを、今回のランコントロール向けに「聞きに来る人たちは私たちに何を求めているのか、どのような活動に興味があるのか」という考えに基づきながら書き換えた。また、事前にメンバー全員で一度集まり、お互いの発表を聞いてアドバイスを出し合った。

②成果／課題・改善点：

アドバイスをもらうことで自分では考えつかなかった事が多く見つかった。また、時間の使い方を考えなければならないという焦りから、早口になったり発表の後半をなおざりにしてしまいがちな悪い癖への対処をしなければならないと感じた。

2. アトリエ発表



・日時：3/25(金) 15:35~16:55

・アトリエタイトル：

2015年度「弘前×フランス」プロジェクトを振り返る

Réflexion sur notre défi 2015: projet plurilinguistique et pluriculturel «Hirosaki×France»

①目標：大きな声で発表する。言葉遣いに気をつける。

②プレゼン・発表内容：

2015年10月にボルドーに一週間ほど滞在し実施した「弘前×ボルドープロジェクト」の活動報告。日本館での展覧会イベント、ボルドー街歩き、サンテミリオン取材、モンテーニュ校との交流など。

③成果／課題・改善点：

時間が押していることからの焦りにうまく対処できず、早口になってしまった。うまく伝えることができているかどうか、現地での活動がどう評価されているかなどに関してネガティブな思考が巡ってしまい、100%の力を出し切ることができなかった。しかし発表終了後、興味を持っていただいた点に質問や要望を頂いたことから、自分の発表は自分で思っているよりも良いものだったのかもしれないと思うことができた。

④感想、展望など：

ひどく緊張し、発表の内容にも話し方にも自信が持てず、発表の後は羞恥心すら覚えたが、質問や要望、その他お褒めの言葉をいただいたことから、自分の発表自体には前向きな評価をしたいと思う。しかし、このことから自分は必要以上に後ろ向きな評価を下してしまいがちであるという短所が見つかった。

またプレゼンをする機会があった際は、自分がしてきたことに胸を張って話すことで、よりよいプレゼンにつなげていきたい。

3. その他の参加アトリエ

・日時：3/26(土)10:00～11:20

アトリエタイトル：

私たちの考える中等教育における外国語学習について

L'apprentissage de deuxièmes langues étrangères dans l'enseignement secondaire

英語にのみ固執する現代の日本における外国語教育の在り方の是非について、そして開かれた外国語教育を進めるためには何が求められるのかという内容であった。慶應義塾大学は大学受験における外国語の分野では、英語だけでなくドイツ語やフランス語などの問題も任意で選択できるようになっている。その問題用紙のサンプルを手にとって読むと、私たち学生が目にする外国語（英語）の出題スタイルとはいくらか異なるものがある。単なる文章の読解や語彙の確認だけでなく、むしろ小学生のころに受けた易しい国語の授業をそのままフランス語・ドイツ語訳したかのような形式であった。単純な単語や文法の詰め込みではなく、実践的なコミュニケーションに主眼を置いた問題作りは非常に興味深かった。また、「英語以外の外国語は日本人の中高生には馴染みが薄い。言葉そのものに興味を持ってもらうためには、その前にその国の文化に触れて貰い、親近感を養うことが重要だ」という点もいい発見になった。

・日時：3/26(土)11:35～12:55

アトリエタイトル：

学生主体のプロジェクト活動における実践知と気づき — 「弘前×フランス」プロジェクトを事例として—

Apprentissage par projet : la réflexion sur le cas de « Hirosaki×France »



自らが携わった「弘前×フランスプロジェクト」について、熊野先生、釣先生、今中先生それぞれの視点からの発表を聞き、私たちの動きが客観的にどのように捉えられていたのかを考えることができた。過去にプロジェクト内での活動や思ったことなどについてインタビューされた内容が多く研究

結果として掲載されており、自分の活動が自らの成長につながっただけでなく、研究者にとっても有益なものとなれたことには驚きと喜びを感じた。

4. RPK2016 の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想

このような改まった場所で発表をするという初めての体験は、心理的負担が大きかったが、今後社会人として生きていく力としてプラスに影響する非常にいいものになったと思う。教員や研究者、慶應義塾大学の学生たちとの交流やプレゼンを通して、全く異なる立場の人たちが何を研究してきたのか、そして自分たちの発表をどう感じたのかを互いに学び合うことができたと思う。この経験は、今後の大学生活だけでなく、就職に向けて、さらに就職後も大いに役立つ力（プレゼン力、コミュニケーション力、聴く力など）をわずかではあるが得ることができた。今後の弘前大学は、人文学部の消失とともに外国語への向き合い方が大きく変化する。ちょうどその過渡期にある私たちだけでなく、後輩にも、そのことについて考えるだけでなく、社会人として羽ばたく力を養うためにもぜひ経験してほしい。

5. 慶應義塾大学（國枝研究会）の学生との同宿や交流の感想

弘前大学のメンバーでは女性は私一人であったため、同席した人たちは私から見ると全員初対面であるのに対し、相手は私を除き全員既に親交がある、という関係が非常に心細かった。終始緊張し眠ることすらままならなかったが、慶應義塾大学の方々が弘前大学のメンバーを夕食に誘ってくださるなど交流のチャンスを作ってくれたため、そこから積極的に話を広げられるように自分なりに気を配った。場の雰囲気乱すことがないように注意を払ったが、自分自身の気疲れが激しかったため、自分もリラックスして楽しめるような交流について考え、コミュニケーション力の向上につなげたい。